

## 平成24年度 奈良県広陵町教育講演会 開催報告

- 1 日時：平成24年8月17日（金）9時40分～11時40分
- 2 場所：奈良県広陵町総合保健福祉会館 さわやかホール
- 3 主催：奈良県広陵町教育委員会
- 4 講師：NPO法人都市災害に備える技術者の会 }  
          神戸防災技術者の会 } 片瀬範雄  
          (陪席) NPO法人都市災害に備える技術者の会 伊藤東洋雄 柏田勝幸
- 5 対象者：広陵町立幼稚園（6園）、小学校（5校）、中学校（2校）の先生とPTA 計203名
- 6 演題：「防災への備え」～阪神・淡路大震災で学んだこと、そして東日本大震災に学ぶこと～
- 7 講演会次第  
    9時40分～10時00分           開会行事  
    10時00分～11時30分        講演  
    11時30分～11時40分        閉会行事
- 8 研修内容  
    開会行事：

主催者挨拶：領内 勇 広陵町教育委員会委員長

最近の教育を取り巻く環境（非行、いじめ、DV）を朝日新聞の事例から示した上で、先生方の適切な指導と情熱に対し感謝の意を表した後、昨年3月11日に発生した「東日本大震災」に話題を移し、

- ・人と人との繋がり大切さを学んだ。
- ・自然災害を正しく理解し、適切な対応が不可欠である。
- ・他人事ではない。災害は何時起こるか分からない。
- ・備えが大切であり、日頃の訓練が欠かせない。

と強調された。

来賓祝辞：平岡 仁広陵町長

「いじめ」、「学級崩壊」が世間の話題になっているが、本町ではこのようなことは起こっていない。これはひとえに先生方、ご父兄の尽力のたまものであるとお礼を述べるとともに、奈良県全体の実態は「成績はよいが勉強が好きではない」、「体力は弱い」と言うことを示し、「面白い授業をして生徒を引きつけ、悪い方へ向かわせない。」「子どもは宝である」ことを肝に銘じて日頃取り組んでほしいとの要望・期待を寄せられた。

その上で、「ちょっとした心構え」、「ちょっとした活動」が減災に繋がり、家族を救うことになること述べ、「備えが大切である」ことを強調された。

また、広陵町は災害が少ない町ではあるが、しっかり話を聞き、減災に繋げて欲しいと訴えた。

講演「防災への備え」～阪神・淡路大震災で学んだこと、そして東日本大震災に学ぶこと～

講師：片瀬範雄

- 1 阪神・淡路大震災の地震発生直後の様子は
  - ・神戸であのような地震が起こることは全く予想していなかった。
  - ・耐震補強の重要性（E-デフェンスの実験ビデオも放映）
  - ・火災の状況紹介

- ・家具の固定と配置について
- 2 交通施設や業務ビルなどの被災は
  - ・被災写真から当時の様子を思い出す
- 3 倒壊家屋の下敷きの人を助けたのは
  - ・地域住民が80%救助した
  - ・クラッシュ症候群
  - ・自主防災活動の大切さ
- 4 避難所の開設は
  - ・風水害など事前に予測できるものと地震への対応の違い
  - ・神戸市職員の出動率
  - ・避難所開設するため学校の鍵を開けたのは？
- 5 避難所の生活は
  - ・体育館を開放するのか、教室を開放するのかを事前に話し合っておく
  - ・神戸では避難所を校庭には建てなかった
  - ・震災後の主な業務は通常行っていないことの連続
  - ・トイレの処置
  - ・酒に溺れ他人に迷惑をかける人（独居死）
  - ・要援護者への対応は日頃から
  - ・避難者の心を守るマスコミへの対応
  - ・避難所運営を自主組織の結成して
  - ・避難所のタイプ（地域リーダー型、学校教職員型、ボランティア型、行政主導型）
- 6 子ども達の行動は
  - ・自主的に考えながら対応をしてくれた
  - ・ボランティア活動も
  - ・子供の姿は大人への生活債権への意欲を生む
- 7 東日本大震災の被災地は
  - ・被災者・行政が協働して復興計画の策定に取り組んでいる。
  - ・一日も早い仮設住宅からの恒久住宅への移転が望まれており、支援が必要
- 8 日頃の訓練が津波から子供達の命を救った
  - ・釜石の奇跡
  - ・大川小学校の事例
- 9 災害の被害を少なくするために（居安思危）
  - ・直下型地震とプレート境界型地震の違いの説明（揺れ型の違い）
  - ・奈良東縁断層帯の発生確率と阪神・淡路の発生確率の比較
  - ・過去に奈良県でも地震の被害や、王寺町亀の瀬での地すべり被害の紹介
- 10 地域の人が地域の人を守るために
  - ・神戸市ふれあいまちづくり条例（平成12年3月）の紹介
  - ・震災後、市民が市民を守る地道な活動の取り組みが進んでいる



分かりやすく講演する片瀬講師



熱心に講演を聴く受講者

## 9 質疑応答

なし

### 1 0 閉会挨拶：辰巳恵規真美ヶ丘第二小学校長（校長会会長）

講演を聴き、「地域の人が地域の人を守る」ことの大切さ、「お互いの助け合い」が重要であることを改めて認識したと述べ、「地域の和の構築」が被害を最小にするのだと強調された。

### 1 1 反省と感想

講演会終了後控え室にて30分程度ではあったが、教育委員長、教育長と教育委員の皆様5人と片瀬、伊藤で講演の内容等について話し合った。

一番に気にかかっていた講演内容の理解度については、事前に気象庁発行の「危険から逃げよ」を読むように言っておいたので理解が深まったのではないかということであった。

内容としては、少し「盛り沢山」だったのではないかという感想も聞かれた。

また、現在の「学校防災マニュアル」だけでなく、より実践に役立つようアレンジを考える必要があるとの意見もあった。

（以下伊藤の感想）

その他、質疑応答の時間を設けたが、誰からも質問がなかったのは残念であった。

よく理解できたからか、また、ああいう場での質問に慣れていないのか。

講演の途中で会場の様子を確認したが、皆さん熱心に聞き、メモをとる人もおられた。